

昭和56年 4月10日発行

J.P.C



No. 11

打楽器アンサンブル へのいざない その2

塚田 靖

もうコンクールも終り、みなさんも、ほっとしていることと思います。

さて、前回は、楽器の分類や、種類について書きましたので、今回は楽器と使い方のいろいろな工夫や、発音の変化について書いて行きましょう。

I ティンパニ

もう一般的に使われているシステムとかサイズは、みなさんよく知っていると思いますのでここでははぶきます。

いろいろな使い方と、その特長

演奏法については細かくまでふれませんが、実際に使う場合のいろいろな方法を書いてみます。

A. ミュートをを使う。

丸いフェルトのやわらかなもので、直径17~20cm位のもので使いやすいと思います(ホットケーキ位のを考えて下さい)。これをティンパニの皮の上におくわけです。置く位置により、音の響も、音色など、いろいろかわってきます。

たとえば、非常に低い音を細かいリズムで、しかもPPでキザム時など、あまり響きが残りすぎると、はっきりしたつぶか聞き取れなくなります。こんな時はミュートを使うと、細かいリズムもよく出てきます。もちろん、その時に使うマレットにも大いに関係してきますが、小さくカタ目のマレットを使い、ミュートを半径の寸位のマレット(打つ場所とはほぼ同じ位の所)、アタックをかたくして打つと思います。もちろん、これは特に低い音だけにかぎったものではありません。中音域でも、高音域でもこのミュートの効果は充分に出せます。しかし、もっともその効果が表われるのが低音域のPPなどの場合でしょう。

B. 打つ位置を変える

さて、今度は打つ位置を変えてみるということを考えてみましょう。

普通、打つ位置は半径の寸~寸位の所ですが、この打つ位置を変化させることにより、異なった音色を作り出そうということなのです。

たとえば、皮の真中を打つてみますと、ほとんど、ティンパニの響きはなく、ポコポコした音しかしません。また、音量もそれほど大きくは出せません。ですから、吹奏楽や、オーケストラなどの合奏の時は、特殊な場合をのぞいては使われません。

しかし、打楽器アンサンブルのような、合奏形態の中ではいろいろな条件がちがいます。つまり他のアンサンブルのようにベイシックな響きばかりでなく、常にその楽器の特色、特長、そして出来るかぎりの変化に富んだ表現ということが要求されるからです。この点を考えると、この中心点を打つポコポコしたへんな感じの音も、たいへん有効に使われてくるわけです。

C. 左右のマレットの質をかえて使う

これも、前に書いた分野に入るとは思います。たとえば、左手のマレットをソフトにし、右手にウッドのマレットを使うと大変おもしろい演奏にすることが可能になります。

この他にフェルトとゴム、フェルトとワイヤブラシ、又はマラカス。フェルトとマリンバのマレットの柄の部分等々。いろいろなコントラストに富んだ音を作り出せます。

II ボンゴ

この楽器は、ラテン打楽器群の中でも、最もはでに動き廻ることの可能な楽器の一つです。この楽器は、一枚皮ですから、その張り方により、いろいろと音程の変化をつけることが比較的簡単です。

サイズとピッチ

この楽器は、あまり正確なサイズがきまっていないものもにありますが、一般的には、大きい方が8インチ位、小さい方が6インチ位のものが多く使われているようです。中には、大きい方が6インチ位、小さい方が4インチ位のものもありますが、あまり小さすぎるのはよくないと思います。

さて、音高(ピッチ)ですが、これはティンパニのように、正確にA、E6、と作ることはなかなかむずかしいと思いますが、それに近い音を作ることは可能です(少なくとも、両面鼓の皮膜鼓系打楽器類よりは)。

もちろん、2ケのバランスを考えてチューニングすることが大切なことはいまでもありません。また、その曲の調性に合わせて使うことが、まったく不可能なわけではありませんし、その楽器の最もよく響くバランスの中で合わせられる調子が、いくつかあるはず(しかし、あまり張りすぎても、ゆるすぎても、良い響きか作れません)

2個の音高の差

さて、ボンゴはラテン打楽器の中では、Solo的な要素が大きい楽器であることは、前にも書きましたが、では、その効果が最もよく表現できるようなチューニングというところ、これも大変むずかしく、特にその楽器のサイズと、皮の厚さ、その日の温度、湿度など、いろいろと関係があります。一般的にいわれていることは、2個の差が、3~5度位がよいとされていますが、これも、その楽器の響き、使用瞬間数なども大いに関係してきます。

指で演奏する場合と、マレットなどを使う場合

これは、コンガ、ドラムも同じことがいえますが、ボンゴは、とくに奏者の指がそれ専用(?)にできてこないとなかなか良い音が作れません。もし、今私がボンゴを指で演奏しても、指の皮がやわらかすぎて、“べちゃべちゃ”した音になってしまうと思います。そこでスクールバンドの中などで使う時も、同じようなことがいえると思いますが、大きな音や、直接指で打つよりも、マレットなどを使った方がいい音を出せる場合があります。

A. マリンバのマレットを使う。

これも、使うマレットをいろいろ変化させることにより、異なった音色を作り出せます。普通は毛糸をまいてあるマレットを使う場合が多いのですが、ゴムのマレットを使うこともあります。前者は、コンコンとした丸味のある音が出ますが、後者の方は、アタックもはっきりしますし、音もはげしい音が作れます。この他にS.Drのスティックを使うのも、考えられます(しかも、頭部の方と柄の方を使い分けるのもおもしろいと思います)。

B. [籐]のような細いバチで打った場合

これは非常にはげしい音が出せます。つまり、皮面を、[点]で打つのではなく、バチの太さの[線]で打つことになります。これは、奏法は少々むずかしくなりますが、(ミスタッチをする恐れがあります)。小太鼓のリムショットのような感じの音が得られます。(この項次号につづく)

一つの例題としての私の即興演奏

私は、当然のことでしょうが、音楽そのものについては、まったく書く術を知りません。まあ、言語にすべて翻訳してしまえるようなものであれば、きっと音楽なんていらなんでしょうし、言葉とそれほど親密につきあってきたほうでもないの、どうやら生命そのものに深く根ざしているらしい、人間の音楽する熱情とか、音の源泉を、無傷のまま、まるごと掘り出すには、あまりにも力不足を感じるわけです。

そんなこともあって、自分の演奏についてあまり説明したくありません。説明にこだわるとボーンと戻りたくない所に投げ返されてしまうし、結構うまくいったところで、ポロポロ落としてしまう大切なことが多すぎる気がするのです。

しかしながら、打楽器の即興演奏の方法、一つの例題としての私のいくつかの方法についてはなんとか語ってみようと思ひ、同好の諸兄諸姉へ、ここに問います。

さて、その前に私の立場（のようなもの）をある程度明らかにしておく必要があると思ひます。現在、私達が触れることができる音楽だけでもまったく多種多様なわけですが、そんな中で即興演奏と一口にいってもとらえどころがないと思うのです。すでに様式として確立しているように見える、あるジャンル内の規約の上での即興演奏、例えば、クラシックのテクニカルチームを習得した上での即興、世界中にある民族音楽の各々の構造にのつた即興演奏（例としては、インド音楽等の高度にシステム化した即興演奏）等々、それらすべてを大きな一つの体系の内に整理してしまうことは不可能だと思われまふ、また演奏家にとってはさほど意味のあることとも思われまふが、私はそれらを、広く浅くではありますが、できるだけ学習するようにしてきましたつもりです。それは単によく聴くだけのこともありましたが、バリ島のガムラン音楽等のように、その音楽生活の中に住み込んでしまつて、その伝統の深さ豊かさに驚きと喜びをもって沈み込んでしまつたこともありまふ。

そんなような、一切切、個人的な特殊と思える体験も、きっと多くの若い人達が音楽を始める動機となつたであろうような事共も含めて私の腹のつぼの中には様々な音楽の種子が植えこまれて渾沌としているのです。それらは、私の内でうまく育たなくて消えていってしまうものもあるかもしれません。その中のあるものは大きく成長して、来たるべき発露の瞬間を求めて激しくあえているものもありまふ。そのような生命の一つの場所を用意することがせまられているのです。そんな理由で私には従来の様々な音楽様式の内にももはや音楽だけの中にもとどまりきれなくて、ジャンルの垣根を飛び越えてしまひ、それらのために来たるべき様式を用意することが急がれます。それはすでに様式とはいへないかもしれませんが、また様々以前ともいへまふ。ともかくその場に全面投入できるような器がそのときどきに必要になってくるわけでそれを仮りに即興演奏と呼んでいるのです。去年からスタートした場所と樹力という即興演奏のシリーズ

はそういったうねりの様なものを自分で作りだしていきたいと思つて始めたのです。樹力とは呪力であり、磁力であり、気力でもあるのです。ともあれ、これはまだ音楽の骨だけというか、断片ばかりかもしれませんが、いちばん大切にしているところでもあります。

なかなか本題に入れなくて困るので、自分の立場の表明はこのくらいにして、とりあえず、打楽器の即興演奏の具体的ないくつかの方法についてお話ししまふ。

◎楽器について

当然のことですが、一つ一つの楽器を吟味すべきだと思ひます。しかし例えば、音色が素晴らしく気に入っているのに音量が極端にとほしいようなときには、共鳴体としての何ものかをつけ加えたりすればいいわけで、極論すれば使えない楽器というものはほとんどないのだと思ひます。生のままだとごくつまらない様な楽器や物体でも、他の楽器とのブレンドのしかたとか、録音などで、素晴らしい効果をあげることがまあるのです。

◎チューニングについて

これも意図される音楽のサウンド等を前程として多様なやりかたがあると思うのですが基本的にはその楽器がもっともよく響く状態というものをよく理解してからのことですが、人間、個人個人でみんな体の大きさや体型が違つたり、好ききらいがあつたりするわけで、自分に合ったチューニングというものがあつていいと思ひますし、初めて触れた響き等に触発されて、それを生かすような音楽をイメージするといった余裕も必要だと思ひます。これはああでもないこうでもない自分でやってみて発見するしかないと思ひます。

◎セッティングについて

まず、即興演奏といへども、合理的なセッティングというもの、求めるサウンド等に応じてあるとします。しかし私は、必ずしも合理的ということが演奏家の表現の自由を保障するものであると思ひません。むしろ、無作為に、あるいは、一見非合理的に並べられた楽器の中で、新しいリズムを発見したりすることがまあるのです。

◎ポリリズムとポリミーターについて

ソロの演奏でも手足が各々2本づつあるわけですから初歩的なポリリズム（同じ時間の帯をベースにして異なるリズムを叩き、重ね合わせる）も可能なわけですが、即興演奏ではもう一つポリミーター（異なる時間のコンセプトを組み合わせて、統一されたリズムを作る）ということが重要になると思ひます。

さて、限られた誌上で、うまく説明できないことをお詫びします。これらをベースにしたアンサンブルの可能性等、まだまだ未踏の分野が広がっていますが、興味のある方にはできるだけお答えし、一緒に学習できればと思ひています。

花 千羽理芳(古流松應会) “佐藤康和打楽器演奏会”

4月18(土)・19(日)

開場：PM 6:30

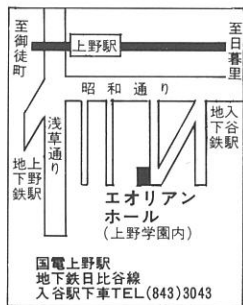
開演：PM 7:00

エオリアンホール

前売1,500円(予約)

当日1,800円(全員自由席)

問い合わせ先 585-3784 スタジオ打楽器路房



パーカッション・グループ72 第11回定期演奏会

「フランスの打楽器アンサンブル作品」

二組のティンパニのためのマーチ J・フィドール
A・フィドール
イオニザシオン E・ヴァレーズ
プロジェクション(初演) A・ヴェベール
3つの小品(初演) M・カルス
セレモニアル A・ジョリヴェ

1981.6.1.(月) PM7:00 ￥2,500(全席自由)

日本青年館ホール

主催 パーカッション・グループ72

協賛 日仏学院

楽器の知識 その1

～楽器商報社刊～

「楽器を求めての巡歴」より

打楽器の音色には、その含有倍音やその他の点において、解明不可能な、不可思議なものが多い。

つまり、その名の通り、衝撃による発音であるから、音色および音量の時間的な変化が極めて奇怪で複雑である。

例えば銅鑼——GONG OR TOM-TOM——などはその最たるものであろう。

その天地が覆えるようなファンタスティックな音は、ソニック・アナライザーSONIC ANALYSERとよばれる、数千万円もするコンピューターつきの音 分析器を使っても、とても解明できるものではない。

そのためか、打楽器を対象とした音響学的な研究資料は極めて少ない。

打楽器の音色には整数倍音は殆ど含まれていない

打楽器の発振体であるバーBAR(木琴や鉄琴の細長い板等)ドラム・ヘッド、棒あるいはベル(カリヨン CARILLON、梵鐘または鉦、鈴など)の振動形態は周波数の倍音が整数にならないものが殆どである。

今までに学んできた弦楽器や管楽器の弦や気柱の振動形態は殆ど整数倍音を含んだもので、昔から物理学者や音響学者たちが詳しく研究して、その含有倍音を数値で表わし、さらに譜面でも——いささか狂ったものとはなるが——表現しているが、打楽器の場合は、計算上あるいは計算式では理論的に表現されているものの、われわれのような素人には到底歯の立たないものである。

打楽器には大別して2種類のものがある

打楽器——パーカッション PERCUSSION INSTRUMENT、TS——とよばれる数多くの楽器は、大きく区別すると、音程の定まった楽器(木琴、ピブラホン、カリヨン、チンパニーなど)と音程のない楽器(シンバル、カスターネット、ドラム類、梵鐘、ラネン、パーカッションなど)の二種類に分類することができる。

音程の定まった打楽器

音程の定まった打楽器 DEFINITE PITCH PERCUSSION の発音体の形式としては、バーBAR、丸棒ROD、枝PLATE、ドラム・ヘッド MEMBRANEおよびベルBELLなどを使うさまざまなものがあるが、その主なものは、棒楽器とよばれるバーおよびロッドを使うものである。

(註) 楽器のなかには弦楽器と打楽器との混血児のようなものもある。例えば次に挙げるダルシマーや洋琴もその一例である。

☆ダルシマー-DULCIMER——ピアノの原形となったものと考えられる梯形の弦楽器で、大きさは広いほうの端で1メートル以下、その形はピアノの響板と弦の部分そっくり

取り外したようなもので、レスト・ブランクもチューニング・ピンもついている。響板には二個以上のローゼット(バラの飾り模様)のついたサウンド・ホールがあり、ブリッジが二個あってその間に弦が張られている。弦は直線またはスチール線で一音に二本、三本、四本、ときには五本もユニゾンでつけられる。ダルシマーは、机の上に置くかあるいは台をつけて、二本のハンマーで弦を叩いて音を出す。ハンマーの両端の頭には軟らかい皮と堅い皮を巻き、これを使い分けて音色の変化を出すことができる。なお、この楽器は現在でもハンガリーやトランシルバニアのジプシー・バンドで使用されている。

☆洋琴(揚琴とも書く)——中国のダルシマーそっくりの民族楽器である。

洋琴は、17世紀にヨーロッパから伝わったもので、現在中国全土で使われ、主として語り物音楽や戯曲音楽の伴奏に用いられ、特に広東音楽では中心楽器の一つとなっている。

(註) ピアノも、ある一面から考えると、打楽器であるということが出来る。なおピアノの項で詳述した通り、その含有倍音は整数倍音とはならず、いささか狂った、部分音(パーシャル)となり、ピアノ独特の音色を生み出す。

バーを使う打楽器には、そのバーの一端を固定して鳴らす方式と、そのバーを軟らかいものに掛けて自由に振動させる方式のものとの二種類がある。

バーの一端を固定する方式の打楽器

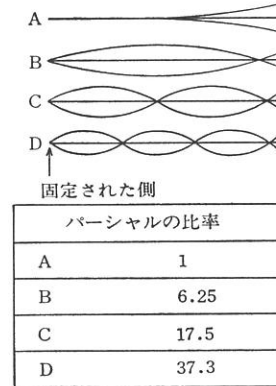
軟らかい木に釘あるいはピンを打ち込んで、これを叩いたり撥いたりすると音が出る。さらにこの釘やピンを長短さまざまなものとして並べると原始的な楽器ができる。

オルゴール、玩具の卓上ピアノなどはこの原理に基いて作られたものであるが、楽器としての性能を考える場合、あまり重視されるべきものではない。

その振動形態と倍音を示せば左の図の通りとなる。つまり、基音に対する倍音は、弦楽器や管楽器に現われる整数倍音とはおよそかけ離れた奇妙な音となる。

そのため、この場合、倍音とはいえず、パーシャル・トーン PARTIAL TONE (上音と訳されているがむしろ附随音とでもよぶべきであろう)という。

つまり、この方式の楽器のパーシャル・トーンは、原音とは全く調和しないもので、



——J.P.C. 推薦コーナー—— 西独：SONOR 社

この度、西独のパーカッション・メーカーSONOR社の日本総代理店として当社が正式契約いたしました。ドラムセット、スネアドラム等大量に入荷致しました。特にスネアドラムは、ドイツ特有の厳格さ

に支えられ構造もしっかりしており、正に名器とよばれるにふさわしい品質です。ぜひ一度お手にふれてお確かめ下さい。

原音から遊離した極めてカン高いものとなる。

- (註) 金属製のリードを揆いたり叩いたりしてその音を電氣的に増幅する方式の楽器がある。ホーナーのハーブシコードの音が出る楽器あるいは従来のエレピアンなどはこの方式を採用したものであるが、整数倍音とかけ離れたバーシャル(上音)をフィルターで処理する方法が難かしいといわれている。
- (註) ネイル・バイオリン NAIL VIOLIN という珍しい楽器がある。これは円盤の上に大小の釘を丸く並べて打ちつけたような形態で、バネの一端を固定した発音体をもつ珍しいものである。ただし、打楽器ではなく、バイオリンの弓を使って演奏するので、奇妙な連続音が出せる。なお、ミュージック・ソー MUSIC SAW とよばれる、西洋式のノコギリを弓でこすって演奏する珍妙な楽器も、音響的には、このカテゴリーに属するものであろう。

バーを自由に振動させる方式の打楽器

これは、シロホン、ビブラーホーンなどに用いられている方式である。

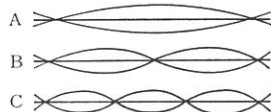
この場合、バーの両端に穴をあけて——双方ともバーの全長の約1/3の個処に——バーを、ゴムやフェルトなどの軟らかいものに掛けて、ネジで止めて、その中央をマレットで叩いて音を出す。

その振動形態と倍音を示すと次の図の通りとなる。

この形式の場合もバーシャルは半端な数字となってハーモニクスはととても望めない。

- (註) バの両端のビス止めの個処——全長の約1/3のところ——が振動のノード NODE となり、バーの中央がアンティ・ノード ANTI-NODE となることはいうまでもない。そのため、基音を強調してバーシャル(上音)を押えるために、通常、バーの中央の裏側を三ヶ月型に削り取る。

- (註) バーのチューニングとしては、中央を薄くして、その硬さ STIFFNESS を減じてしなやかにすれば音程は下り、端を削ってバーの質量 MASS を少なくすれば音程が上る。しかし、この形式の楽器の場合、バーの質量のほうが硬さより大切であるから、端を削り過ぎないように慎重にチューニングすべきである。



バーシャルの比率	
A	1
B	2.76
C	5.40

- (註) この種の打楽器はフリー・バー FREE BAR の楽器ともいわれているが、その音質はマレット Mallet のヘッドの硬さによって大幅に変化する。ヘッドが軟らかい場合はバーシャルされて丸くて暗い音となり、硬い場合はバーシャルが強く現われて鋭くて明るい音となることはいうまでもない。

以下、このフリー・バーの各種のものについて簡単に触れてみよう。

シロホン

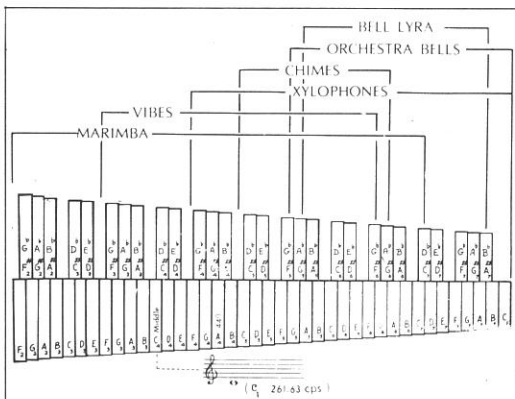
ヨーロッパでシロホンが出現したのは16世紀の初期であると伝えられているが当時は、『STROHFIEDEL』とよばれていて、ストロー(麦桿)の上にバーを並べてハンマーで叩いたと記録されている。

後にサン・サーンス SAINT-SAENS がその作曲のなかに——DANSE MACABRE——この楽器を使ったので、フリー・バーの楽器のなかで、オーケストラに加えられた唯一のアカデミックなものとして重視され始めたという。

現在の、通常立奏シロホンとよばれている、ピアノの鍵盤の配列にバーを並べた大型の楽器には、パイプ・レゾネーター PIPE RESONATORS とよばれる共鳴パイプがつけられているが、この装置はパイプの共鳴の原現によって、音色を改良し、さらに音量を増す役割りを果す。

- (註) シロホンの共鳴パイプは閉管方式——つまり、パイプの底が塞いである——に作られていて、バーの振動数とパイプの空気量の振動数とが一致しないとその役目を果さない。そのため、共鳴パイプの底を上下に動かして調整できるように作られている。つまり、バーの音をチューニングした場合などには共鳴パイプの調節しなければならないのである。

- (註) 電子オルガンに使われているパイプ・スピーカーもこの共鳴パイプと原理は同じもので、含有倍音がナチュラルなものになることを目的としたものである。



各種打楽器音域表

スネアドラム

420	14" × 3 1/2"	ピッコロ
505	14" × 5 3/4"	
506	14" × 6 1/2"	
515	14" × 5 3/4"	
516	14" × 6 1/2"	
525	14" × 5 3/4"	スーパーアクション

() は免税定価

メタル胴	¥ 74,000	(¥ 70,000)
メタル胴	¥ 92,000	(¥ 87,000)
メタル胴	¥ 96,000	(¥ 91,000)
木 胴	¥ 92,000	(¥ 87,000)
木 胴	¥ 96,000	(¥ 91,000)
メタル胴	¥ 148,000	(¥ 140,000)

SONOR 日本総代理店(株) コマキ楽器

★Premier Drums★

HARVEY MASON 来日!



昨年、ボブジェームス(Key)と共に来日し、素晴らしいドラムを聞かせてくれたあのハービーメイソンが今回日本の実力派グループ“カシオペア”のプロデューサーとして来日し、全国ツアー公演の特別ゲストとして彼の力強いドラミングと“カシオペア”の共演もお楽しみ頂ける事でしょう。

来日スケジュール

※カシオペア全国ツアー

タイトル：STEP FOR THE WORLD

- 4/27 福岡：郵便貯金会館 くすミュージック (092-714-3151)
- 4/28 大阪：厚生年金中ホール サンケイ企画 (06-343-1271)
- 4/30 東京：厚生年金大ホール ADO (03-405-0373)
- 5/2 横浜：横浜市民ホール キョードー横浜 (045-251-1861)
- 5/4 札幌：札幌教育文化会館 ミューズ (011-271-0860)

メンバー

Guirar：野呂一生
 Keyboard：向谷 実
 Bass：桜井哲夫

Drums：神保 彰
 Produce, Drums & Percussion
 HARVEY MASON



J.P.C. コンサートで演奏した“四季”がレコードになりました。

曲目 ビバルディ作曲“四季”
 REC. No.キングK28C111
 演奏 東京マリンババンド
 指揮 有賀誠門
 Solo：中村早苗
 1st.：中谷孝哉
 2nd.：小川佳津子
 Alt.：山口多嘉子
 Bass：岡田真理子

☆石橋メモリアルホール録音

“アイズ・オブ・マインド”

演奏 カシオペア

Produce HARVEY MASON
 Arrangement BOB JAMES
 Percussion PAULINHO DA COSTA
 Keyboards Programming
 MICHEL BODDICKER

- 曲目
- Side A
 - 1. ASAYAKE
 - 2. A PLACE IN THE SUN
 - 3. TAKE ME
 - 4. LAKAI
 - 5. EYES OF THE MIND

- Side B
 - 1. BLACK JOKE
 - 2. LA COSTA
 - 3. LA COSTA
 - 4. MAGIC RAY
 - 5. SPACE ROAD

アルファレコード 4月21日発売
 REC NO. ALR 28016

“ムクワジュ”

曲目 ムクワジュ、フラッシュバック
 (JPCコンサートにて演奏)

パルス・イン・マイ・マインド

演奏 ムクワジュ・アンサンブル

定成庸司

高田みどり

荒瀬順子

キーボード 久石 護

コンピューター 松竹

ラテンパーカッション ベッカー

※6/25 コロンビアより発売

発売記念公演

- 6月24日(水) PM7:00開演
- 俳優座劇場
- ¥3,000 (全自由席)

LIEBELL *Liebe* NEW PRODUCTS

リーベル 新発売
トレーニングドラム

TRAINING DRUMS SET

消音効果抜群!

●夜、お隣りさんから文句を言われないトレーニングドラムセット。

夜はドラムの練習ができないものとあきらめていた人には打って付けの練習台。

●φ25.4mmの太いパイプを使用。

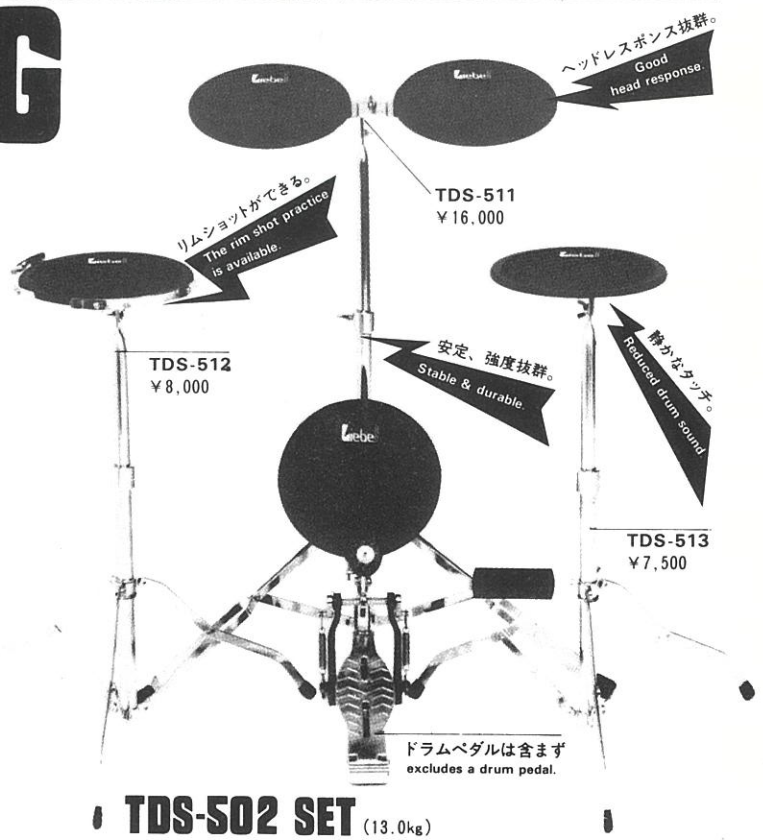
この練習台は強度、安定度を重視しながらも、コンパクトに設計、重量もより軽減されています。

(TDS-501 12kg)

(TDS-502 13kg)

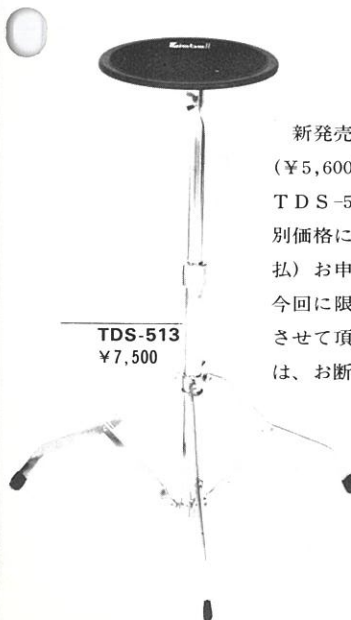
●ヘッドレスポンス抜群。

特殊表面加工しヘッドタッチはソフト、スティックのすべりもないように仕上げられています。



TDS-502 SET (13.0kg)

TDS-502 セット価格 **¥31,500**



TDS-513
¥7,500

新発売を記念して、TDS-512を(¥5,600)、TDS-513を(¥5,200)。TDS-502セットを(¥22,000)の特別価格にて販売致します。(送料着払)お申し込みは右記の通りですが今回に限りハガキの申し込みだけにさせていただきます。「電話での申し込みは、お断り致します。」

尚、御使用后、感想文(御批評)をお寄せ頂いた方に(株)アイダ楽器より豪華プレゼントを差し上げます。送り先はJPCまで。〆切は5月末日までにさせていただきます。

通信販売申し込方法

●JPCでは、地方の会員の皆様のために通信販売を行っております。ご購入の品物がありましたら、電話または手紙(葉書)で下記の事項を明記の上、ご注文下さい。

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| ①商品の名前 | ⑦氏名 | } のいずれか希望 |
| ②メーカー | ⑧TEL | |
| ③規格・品番 | ⑨お支払い方法 | |
| ④数量 | ⑩現金書留 | |
| ⑤お届け先住所 | ⑪銀行振込 | |
| ⑥会員No. | ⑫郵便振替 | |

●お支払いは品物の到着を確認の上、上記のいずれかの方法で1週間以内に完了して下さい。

●会員の皆様には会員価格(定価の1割~2割引)でご注文の品をお届け致しております。この場合、送料を品物の代金と一緒に送り頂く場合(小さな品物)と、受取人負担として品物が到着した時に送料をお支払いただく場合(大きな品物)とがございます。御了承下さい。

●カタログ希望の方はカタログ請求券と350円切手同封の上、お申し込み下さい。

※尚、輸入版カタログは実費を頂く事がございますので、あらかじめ御了承下さい。

お問い合わせはJ.P.C事務局まで

＝共鳴板(会員の声)＝

7月28日…埼玉県田舎から、不動岡高校生4人がでてまいりました。上京したのですヨ。最近、我が校では、ブラバンでパーカッションが足をひっぱっていると、うわさされますが、それは全くのデマで……はないでしょうか(クシュン)さて、パーカッショングループ72の畑中さんに会った人、ぜひ教えて下さい。彼は、すばらしいパーカッショナー(?)です。もう一度お会いしたいのです。無名高校がおじゃましました。—by Junko

8月15日…[自家製チャイナシンバルの作り方]

某国産メーカーのデラックスシンバルを、ライターであぶったり、ペンチでエッジを曲げたりすると、チャイナシンバルともゴングとも言えない“個性のある音”が作れます。—中山 昌紀

8月4日…パーカッションをやってる人が近くにたくさんいるのだから、そーいう人が気軽に集まって、アンサンブルや練習をされる場所があればいいのにな。こちら、

東京都立大学管弦楽団打楽器科、東横線沿線です。近くに住んでいる人で、Per.やってる人がいたらきてみて下さい。学校の辺をあるいてみれば、音が聞こえるでしょう。(木をたたく音)——あいば みか

11月21日(FRI)きょうは、日比谷でパレードがありました。学校からの援助金、¥270,000をもって、ここにきました。スneaを買うという事で来ましたが、スnea、B、D、Cymケース……

まだまだ遠い。¥270,000を使い切らねばならならぬのだ。パーカスのメンバーは楽しそうに相談しております。あと¥100で¥270,000我々、claパートにまわしてくれれば、いくらでも助けてやるのに……。ついにスティックにまで手を出して、使い切ったようです。うらめしや~~~~。ずるい! フラッグ棒もほしいよお! きょうのパレード、つかれたなあ。

—立正大学吹奏楽研究部 くみこ

JPC雑記帳「打」より

▶ JPC だより ◀

★今回費用振込用紙を同封致しましたので、お早目にお振込下さい。(年間¥1,000)
尚、住所、所属団体等の変更をなさった方は至急御連絡下さい。

★今年も「JPCオリジナルTシャツ」を作りたいと思います。つきましてはTシャツのデザインを募集致します。レポート用紙大に書いてどしどし御応募下さい。〆切は5月20日消印のあるものまでです。採用の方にはTシャツと素適なプレゼントを差し上げます。

★浅草新名物の一つとして4月1日より真赤な二階建てバスがお目見えしました。上野～浅草間、大人200円、子ども100円です。

ジョージ・川口

芸術選賞文部大臣賞——受賞!

演奏家では初めての文部大臣賞受賞です。これは芸術選賞の中では最高の賞で、その受賞理由として昨年の35周年リサイタルの素晴らしい演奏とスーパーバンドのレコードがベストセラーになったという事らしいです。

そして「日本縦断ジョージ川口スーパードラム・クリニック」と題し、福岡を皮切りに熊本・広島・京都・仙台・札幌等で全国の楽器店でクリニックを開催するとの事、皆さんの所でジョージさんのダイナミックな演奏が聞けそうです。詳しい問い合わせは、パール楽器宣伝課 TEL. 0474(84)7080まで。



表紙説明 ベルリオーズの幻想の中で使用されるカリヨン(オランダではベルと呼びます)で、GとCの2音が各々ケースに入って、ハンガーで吊り下げられています。(当社直輸入)現在までにこれと同じ製品は、札幌交響楽団、東京芸術大学、東京都交響楽団等に納入され使用されております。
(Cベル直径40cm・54kg Gベル直径50cm・90kg)

編集後記

あのハービーが(と呼び捨てるほどの友達でもないが…)また来日する。彼のプロデュースした、「カシオペア」のニューアルバムを聞きながら久々に編集後記を書いています。昨年は発行二回という無残な姿でしたが、今年は隔月一回を目標にがんばり、盛り沢山の企画を考えていますので楽しみにしておいて下さい。

さて、話をD・Cしてハービー・メイソンの事です。が、昨年来日した時取材に行ったのですが、カメラを向けるとポーズをとってくれたり、とても気軽になごやかに話しかけてくれるのです。僕はただただ笑顔で額に汗して「イエース」だけでしたが本当に感激してしまいました。でも本番では緊張感ある、そして乗りのいいビート。最高にゴキゲンでした。「ドラマーは乗りだよ」とハービーの一言…。今回のステージでも素晴らしいスティックワークを披露してくれよう。

皆さんも彼の暖かさに一度触れてみて下さい。
Fine

昭和56年4月10日発行

発行所 J・P・C事務局

〒111 東京都台東区西浅草一―七―一

(武藤ビル2F)

電話 〇三―八四五―一三〇四(代)

郵便番号 〇五―東京九―一五三一―五

加入者名 ㈱コマキ楽器